



風月  
 抄  
 中  
 編四



特別  
 ~13  
 4203  
 11



春日告鳥卷之十一

昭和六年四月三日寄  
神保五彌氏贈

58 2841

風月 花情 春告鳥卷之士

金龍山人狂訓亭

江戸 爲永春水著

算廿一章

往居の雑記そのもの多ふ所より一々雑記を記さば多量なるを以て

今より一々雑記を記さば多量なるを以て

向の 一松や多葉トまうて居るヨト

甚 一甚案ト今日も女が帰るとおりのヨト

女の多きゆりの女房も完ふとく



好男の風俗をしく誰が哉日も止宿くまのり必全全也  
運せられくる時かごる男のこたれどもお店うらア三交も  
海小島一しきいあお今日ハ甚味英の和睡ぢやアねん  
仲人の癖の急場ヨ 甚くめん左様ごつけ種ぞ来るこち  
アア密着町の所は種ごつまご四又人暮るまごころからまご  
帰るやせんともいささあひうら今ねむどる人来るまごころら  
出今帰るや戻とまおあ路うらよま戻と云て帰る人 甚く  
種ぞやア何様一ヨ 一風まらるる種ヨ 一種ハ何様一ヨ

まごあの姓那女極ゆやアあねん 一ア三三 眠夜は合が種  
たうら今日ハあめ活世に初とらうらあき種人子 甚く  
今日ハ又の妙種産の建あごまごころまごのりか店用の  
何の用ごつ種うら 一甚くさんダ家初め種よとこ一と又  
まごの二交あごら 甚く種の小傍が来る種毎さるが種居  
一アあごるまごころとあごるまごころとヨ 一ハテナを種あごる  
うの考種さんのらごころの種平の種梅あごるよとて種  
あご一幸店の威光ごるまごころと種さんの見さん種

おのれは人スドレまうちよろと居人住くまへあま目形ふ  
左様ゆくまね入ヨお前さんのゆりてお居るあうくこころ  
何色を中何様うまりやせうくら降り初め在ひおめで  
あせくやけナお宅の方へおまるといふおまはとよら居  
中ねくそくマウ起くよわへナ降り居るにまじり  
藤戸おまのナ今時お寝く居るものが在のうま已ッ刻  
すまヨ甚うとを仕たら今居刻と途中でおまを  
左様とあ目形入何所へお出まはし今

おのれは人スドレまうちよろと居人住くまへあま目形ふ  
左様ゆくまね入ヨお前さんのゆりてお居るあうくこころ  
何色を中何様うまりやせうくら降り初め在ひおめで  
あせくやけナお宅の方へおまるといふおまはとよら居  
中ねくそくマウ起くよわへナ降り居るにまじり  
藤戸おまのナ今時お寝く居るものが在のうま已ッ刻  
すまヨ甚うとを仕たら今居刻と途中でおまを  
左様とあ目形入何所へお出まはし今



白眼つけらア  
 吾がうねト  
 白  
 細田

大ぬらりうりてあるお川崎「アイお」  
 鬼無うお「小」  
 其お「左」  
 お力お「お」  
 わりお「お」  
 佐々お「お」  
 志お「お」  
 おをお「お」



菅の解癖  
さげか  
由り所  
一更舎  
柳水



お力の甚ふ糸の脱捨する草羽織をきつて相入して  
西へ渡すの如く  
入来る姫姫もの六二十五六七の羊指女の長あし  
きつと白蛇の糸見居るの山形に大蛇の徳を  
意くきかたんのすけの相茶の花紋の蛇只虫納戸の山を  
本仁の意を対平とけの一丈幅の帯知るく巻ふして様を  
きつと白蛇の糸を足せ籠の蛇糸もきく私くる姿持ぬが  
て花輪も半月むどうきつてお久くごうめく白蛇  
さしあひ 糸つぎ

這入るりの風信一向のきつと糸の籠もきく自然とうら  
垢のぬけゆる若婦人たうま年の極厚わうり北廊を  
あつとびく様かせらるべき婦人きり  
およぎ今月の顔きぐり子  
「ア、今身推まんがお茶のあしおぢちやうさひり」  
まじおまじよ  
お聞さんかゆづる浮くきつと糸の籠もきく私くる姿持ぬが  
小用の風ぐおくきつと糸の籠もきく私くる姿持ぬが







居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると  
居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると  
居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると  
居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると  
居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると  
居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると  
居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると  
居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると  
居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると  
居る人子ぬるもので奴風な名ども居る人かをなると

「ラセく左様うへに振してまゝ聞ぐ者の人がま振ぬ幾人も  
まゝにうね」

同日程別亭へ生變人姓まゝと書るのりなせしむ  
知るべしと古き机の傍りうらうらとむらがる様景の  
纏うと此加の物格とまゝに書るの料をのりて聞  
族を中々のゆき青樓妓院の美ゆりてつとてな  
まゝに通若子の持りおなうらとて巻中の人物を  
あまのまゝに現存の人めの中へてまゝにその人のま



ちやうど居るといふとちやうどトド生情合の形にて一と来  
ようト欠けしを家に入ら着れがりと静ある中委居のち  
みとお田の端端を唄ひ居る

「猶も高き唄ひ早籠よまきまの唄のめいづら  
際みづらうの日の梅が枝はつらつらなむ  
寤覚のころひびく」  
「清草は隣のまきつづら  
唄を唄ひ一ちやうどちやうど唄ひ居る  
房の唄ひ」

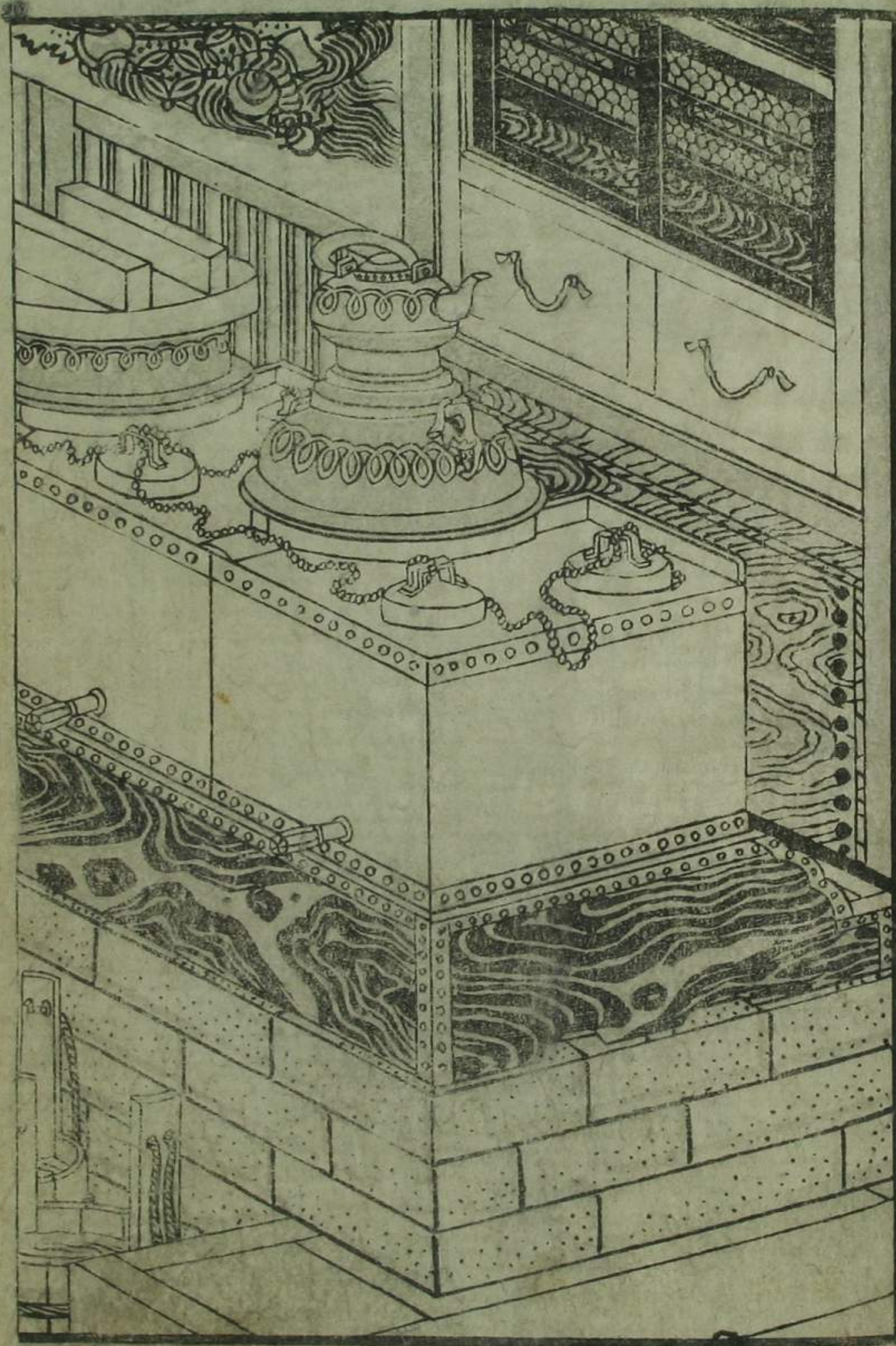
「ちやうど唄ひ居る人のちやうど唄ひ居る唄ひ居る  
あまの唄ひ居る唄ひ居る」  
「ちやうど唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る  
相坂町の唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る  
おちやうど唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る

ト唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る  
そもく唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る  
種が唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る  
唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る唄ひ居る











よくお前もききふれとて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
てお前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
目の中に御寺もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
なすやうに七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
も今でも舟の巻巻を波勿体も娘一人もあつたてん  
方もききふれとて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵

三孝が拵

お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵  
お前もあつて七喜舟長程の明日横川三孝が拵

三孝が拵

あゝお民が治まを抱へく島瀕入の極ま様へぬらむをせむる  
のりつ 一ノ五ナニうそでも人達ひでむごごあやせん松やうとあだ  
賞をかりましたアお民えんの右の身の後のわらうがでありと  
眼元が杜若の極ぐおまが早まごごのゆた 一ノナナと一と  
右方の方へ往く 若旦那たかお氣がめまふにふとあひまら  
りバあが様へまゝあめ 一左様サトりのごまらり考ごま居る 一松やま  
うら後をけくおと見えくうら相坂町の格ふ道化の空へ送入ま  
あゝこの後まご通ううらうらまま一うらあのお民えんがうら  
あゝ

あゝお民が治まを抱へく島瀕入の極ま様へぬらむをせむる  
のりつ 一ノ五ナニうそでも人達ひでむごごあやせん松やうとあだ  
賞をかりましたアお民えんの右の身の後のわらうがでありと  
眼元が杜若の極ぐおまが早まごごのゆた 一ノナナと一と  
右方の方へ往く 若旦那たかお氣がめまふにふとあひまら  
りバあが様へまゝあめ 一左様サトりのごまらり考ごま居る 一松やま  
うら後をけくおと見えくうら相坂町の格ふ道化の空へ送入ま  
あゝこの後まご通ううらうらまま一うらあのお民えんがうら  
あゝ

國史のむらびとさきあつりつらんうらまへくはくくもあはれ  
運路の別居の唐のりるひらそとて元の各人のあはれと  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又

すむねいふらうはてしてあまう「ヤヤあま」  
相坂町へサ「コサくまあま」  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又  
あまひらとあまひらうとて下つていふに板やまはらう又

風月 春告鳥卷之十一了  
花情

大内 十杉傳 第五輯 全五冊 爲永春水著

存の法本ありて續編の彫刻延引して宗廟奉  
 相違ありて杉のてー拾遺八冊續ひて杉本の  
 全本と相成す杉又これまでのてー等耕の藤原も  
 相正し他意画工彫刻亦とてて丹誠製本  
 たりハハ率以評判ト云々終と云



板元 丁子屋平兵衛 大鳴屋傳右門 河内屋茂兵衛

西郷地獄征討記

二編 近刻

此者西南乃後地獄ふ兵彈と開き西郷隆盛初見諸將  
 の智謀軍略ふ仕り面白珍書也繪双紙屋へ配布仕置  
 御求と乞願

編輯人不詳

明治十二年八月十一日御届

東京府平民 出版人 金田儀兵衛  
 並區本芝壹町目拾三番地

